第２学年２組　社会科学習指導案

日　時　　平成25年10月3日(木)　第2時
場　所　　2年2組教室
指導者　　佐々木　幸美

１　単　元　　中国・四国地方　―農村の変化と人々のくらしを身近な愛知県で比較しよう―
（本時　７／７）

（１）目標

①過疎地域の抱える問題について、身近な地域などの事象を含めて広く関心を持ち、設定した追究テーマをもとに意欲的に追究しようとする。（社会的事象への関心・意欲・態度）

②過疎地域の抱える問題点や持続可能な地域づくりのための取り組みについて考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程と結果を適切に表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）

③中国・四国や愛知県の過疎地域の特色に関する各種の地図、統計、写真などの資料を収集して自分なりの分析をすることができる。（資料活用の技能）

④中国・四国地方や愛知県の過疎地域についての、人口や都市・村落を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。（社会的事象についての知識・理解）

⑤愛知県の過疎地域における地域おこしや、それを行う人々の思いを知り郷土への愛を育むことができる。（ESD の視点）

（２）構　想

高度経済成長に伴い、農山漁村地域から都市地域に向けて若者を中心とした大きな人口移動が起こった。これにより、都市では、人口の集中による過密問題が発生する一方で、多くの農山漁村では、住民の減少がみられるようになった。特に、中国山地や四国山地の周辺の地域では、過疎化が顕著で、教育・医療・防災など、その地域に暮らす人々の生活を保障する機能も低下している。過疎とは、地域の人口が減ってしまうだけでなく、その地域で暮らす人々の生活水準や生産機能の維持が困難になってしまう状態を指す。日本の面積にすると５４．１％が過疎地域にあたる。少子高齢社会の日本では、この問題はこれからも考えていかなくてはならない大切なことである。

本学級の生徒たちは、１学期の「世界から見た日本の人口（日本の過疎・過密問題）」の学習を通して、過疎・過密地域の問題点について考えた。しかし、それは自分たちの生活とは関係のない場所で起こっていることと捉える生徒が多かった。過疎地域問題について、本学級の生徒４０人のうち、９人が「愛知県には過疎問題はない」８人が「よく分からない」という考えであった。愛知県は、名古屋市があるため、過密問題は起こっているが過疎問題はないだろうという考えのようである。また、県内の現状もあまり知らないということが分かった。生徒たちの住んでいる本学区には、店が多く点在し、生活に困ることもない。過疎地域の問題についてイメージができないということと同時に、地域おこしについて意識したり、考えたりする必要もない。

本単元では、中国・四国地方の過疎・過密地域について地図で把握したり、人口ピラミッドで特徴をとらえたりする。交通面や人口の流出なども関連づけて指導する。そして、過疎地域で困ることや過疎解消のための地域おこし（町おこし・村おこし）の例を調べる。その後、愛知県の地形と人口の関係を地図で把握する。さらに新城市を取り上げて、人口について調べ中国・四国地方との共通点や相違点を考える。共通点が多いことから、新城市は過疎地域なのではないかという考えに至ったところで資料を提示して、合併後過疎地域を含む市であることを知らせる。ビデオで、愛知県の過疎地域である佐久島の映像を見せ、過疎地域では問題が多く住み続けることが難しいということを知る。そこで、新城市に住む赤ちゃんを紹介して、その子が過疎地域の新城市で生活し続けることができるのか考えていく。まずは、イメージでの話し合いを進める。追究テーマを個人でもち、調べていく。視点は、教育、生活（店）、交通、仕事（地域おこし事業、特産品、観光資源）にまとめる。インターネットを利用して調べ学習を行うが、調べが這いずり回らないように、こちらでヒントとなる写真や言葉を用意しておく。調べた事実は、写真や絵などを入れて見やすく画用紙にまとめていく。また、より意欲的に学習が行われるように、観光協会や関係のある方々へ電話をして、地元の人々の声を聞く活動を取り入れる。そうすることで、新城市の実態を調べるのだけでなく、地域活性化のために努

力する人々の思いや願いなどに気付かせたい。それは、郷土愛へ繋がり、ＥＳＤへつながっていくと考える。

本時では、調べてきたことを発表する中で、仲間の意見から様々な新城市の取り組みを知り理解する。そこで、赤ちゃんは、住み続けることができるのか考える。仕事という面での質問を投げかけ、地域おこし事業や観光資源、特産品などの調べてきた取り組みのすべてが仕事へつながっている事に気づかせたい。また、地域おこしをしている人々の思いや行動についても考えて、新城市の魅力に気づいたり、地域おこしをしている人々に力を貸していきたいと前向きな思いをもつ生徒が現れることを願う。

（３）計画

学習課題	学習内容	時間	備考
中国・四国地方の生活の舞台について調べよう	○気候○地形 ・山陰は雪が多い。 ・瀬戸内は、温暖。降水量が少ない。 ・南四国地方は、温暖で降水量が多い。 ・山地　・砂丘　・平野 ○都市 ・人口の集まり・県庁所在地 ○農業・漁業・工業 ・ピーマン、かき、らっきょう、メロン ○ヒロシマ ・平和記念都市	３	
中国・四国地方の過疎地域・農村の町おこし	・人口の過疎・過密を地図で把握（地形） ・四万十町の人口ピラミッド ・人口の流出（どこへ流出） ・四万十町の合併　・交通 話し合い①「過疎地域で困ることは、どんなことだろうか」 ・町おこし・村おこしの例	１	話し合い①
「中国・四国地方と愛知県を比べて未来を考えよう」	○新城市（愛知県）を中国・四国地方と比べてみよう。 ・人口の過疎・過密地域を地図で把握（地形） ・人口ピラミッド・人口の流出・新城市の合併 ・話し合い①新城市と中国・四国地方の過疎地域で似ていることや違いは、何だろう。 ・話し合い②新城市に住んでいる「瑞彩」ちゃんは、住み続けることができるだろうか。 ○個人調べ（自分の意見に裏付けをつける） 調べる視点 ☆学校・保育園　☆生活（店） ☆交通　☆地域おこし事業（お祭り） ☆特産品　☆観光資源 ・インターネットやパンフレットを利用して調べる。 ・観光推進課や事業を進めている人などに電話をして聞く。	３ 本時 3/3	話し合い②③ ・地域おこしパンフレット

２　本時の学習指導

（１）目　標

調べ学習をもとに愛知県の過疎地域（新城市）の現状を理解し、そこに住む赤ちゃんの未来についての事実をもとに考えを話し合うことができる。

（２）学び合いを高めるための手立て

調べ学習の際に聞き取り調査を入れて、地元の人との係わりをもち、その思いを感じながら、調べてきたことを教材提示装置で映して発表する。

（３）準　備

・生徒……今までの調べ学習ワークシート、筆記用具、ネームプレート

・教師……座席表、教材提示装置、パソコン、ワークシートプリント、ネームプレート

（４）展　開

段　階	生　徒　の　活　動	教　師　の　活　動
導入（４） 課題（１）	１　瑞彩ちゃんの写真を見て、テーマを思いだす。 自分の今の気持ちに近い所にネームプレートを貼る。 ２　本時の学習課題を把握する。	（提示）新城市の自然の様子や住んでいる人の写真を３枚ぐらい映し出す。 （指示）列ごとに順番に張り出させる。 （板書）本時の学習課題を板書する。
	瑞彩（みずさ）ちゃんは、新城市に住み続けることができるだろうか、事実を基に話し合おう	
追究１ (25)	３　自分の追究テーマについて、調べてきた事実を基に瑞彩ちゃんは、住み続けることができるのか考え話し合う。 「学校・保育園」 ・保育園と幼稚園が合わさって、子ども園というのが今年度からできた。朝早くから、夜遅くまで預かってくれるので、働きやすい環境である。保育料も安い。 「生活（店）」 ・商店街では、シャッターが閉まっている店もあるが、高速道路ができるために広い道路や店がたくさんできている。軽トラ市を行っていて、商店街が活性化している。 「交通」 ・新東名の工事が行われている。ＳＡやＰＡエリアもできる。・交通が便利になるであろう。 「地域おこし事業」では、四谷の千枚田の田んぼを使って都会の人に貸し出したり、イベントを行ったりています。 ・戦国ぐるめ街道 ・鳳来の岩場は、日本の中でも有名でこれを広めようとしている人がいます。 ・地域の特産品では、八名丸（さといも）やトマトがあり、コロッケなどを販売しています。	（指示）調べてきたことを、資料を提示しながら、まずは、事実から自分の意見を言う。 （支援）調べてきたことが伝わるように、資料を教材提示装置で映し出す。 （板書）調べた視点ごとに分け、ネームプレートを使用して、生徒の発表を端的にまとめた言葉でわかりやすく板書する。 （提示）発表したことに関連のある写真がある場合は、大型ディスプレイに提示する。 （賞賛）「そうなんだ、なるほど」など生徒の発言を認める短い言葉がけをする。 （賞賛）意見の関わり合いを促す、「〇〇さんと似ていて」など、発言の仕方に工夫がある生徒を誉める。 （板書）つながりのある言葉を発した生徒の意見をそれがわかるように、意見を線で結ぶ。 （指名）さまざまな視点からの意見が出るように、意図的に指名もする。 （指示）話し合いが止まったら、同じことを調べた仲間と相談タイムを設ける。 ()
追究２ (15)	【住み続けることができる】 ・生活環境や交通面、で整備されていくので、住み続けることができる。 【住み続けることは、難しい】 ・人口流出がまだ止まっていないので、今の段階では、できるとはっきり言えない。	（指示）追究テーマをもとに、調べてきた事実をから、自分の考えをまとめる。 （指示）関連ある意見がある場合は、挙手サインを出して発言するようにする。

整理（５）	５　改めて自分の考えと本時の感想を書く。 ・みんなの意見を聞いて、過疎地域には問題がいろいろとあるが、地域おこしに努力をして活性化している新城市が愛知県にあることがわかった。 ・地域おこしのために努力している人、一生懸命な人がいることを知り、自分の住む愛知県にすてきな町があることをうれしく思った。	（賞賛）仲間の調べたことや意見との関わり合いをもった発言をした生徒を誉める。 （指示）仕事を行うことは、できるのか。という揺さぶりをかけ、もう一度考えさせる。 （支援）新城市へのイメージが変わったことなどを中心に本時の感想を書くように声をかける。 （指名）地域おこしに力をいれている人やがんばっている人に目をむけた意見をもっている生徒を意図的に指名する。

（５）評　価

①調べてきたことを基に話し合いに積極的に参加をし、仲間の意見を参考にしながら新城市の取り組みについて理解することができたか。（活動３の様子及び授業プリントから）

②調べてきた事実を基に、新城市の未来や地域を活性化させようと取り組む人の姿や思いを考えることができたか。（活動４、５の様子及び授業プリントから）